

2018年1月24日

佐渡ジオパーク推進協議会

会長 三浦 基裕 様

日本ジオパーク委員会

委員長 尾池 和夫



第32回日本ジオパーク委員会審査結果報告書

去る2017年12月22日に行われた第32回日本ジオパーク委員会において、貴地域は日本ジオパークに条件付き再認定となりました。

その審議の過程における貴地域に関する委員会からの意見をまとめて、ここに報告いたします。

【総評】

佐渡ジオパークは、国指定史跡佐渡金銀山遺跡をはじめ、日本で最初の国定公園に指定された佐渡弥彦米山国定公園、国指定天然記念物及び名勝の佐渡小木海岸など、3億年前から300万年前にわたる貴重な地形・地質遺産を有する日本ジオパークである。

地域住民を対象とした積極的な教育・普及活動が展開された結果、地域住民によるジオサイトまでのアクセス路の整備や、ジオツアーをきっかけに生まれた地域間の新しいつながりと交流の増加、地元の食材を活用したジオ弁当やジオパスタなど、地域住民による新たな商品開発も始まり、ボトムアップの機運が見られている。また、佐渡島の魅力を伝えるジオパークガイドの育成と組織化も進んでいる。

その一方で、ジオパーク、世界文化遺産登録への取り組み、世界農業遺産が、それぞれどのような目的を有し、どのような類似点と相違点があるのか、関係者間で整理されていない。そのこともあるためか、現在は世界文化遺産の登録に偏った情報発信が行われており、佐渡島が日本ジオパークに認定されていることが訪問者にはわかりにくい。協議会全体の動きは活発ではなく、今の佐渡ジオパークの活動は、実質的に協議会事務局がその多くを担っている状況にあり、持続的とは言えない。4年前の認定時に指摘のあった、看板や冊子類の内容の改善や、ジオパークを含む既存の3つの取り組みを包括したジオストーリーの再構築、そしてそのジオストーリーを体験するために必要となる拠点施設の整備に対する対応も不十分である。

したがって、佐渡ジオパークを条件付き再認定とする。今後2年間で、ジオパーク活動に関わる組織・団体が当事者感を持ち、佐渡島に合ったやり方で、ジオパーク活動を地域に広めていって欲しい。

【優れている点】

[地形地質学的遺産]

- ・ 国指定史跡佐渡金銀山遺跡をはじめ、日本で最初の国定公園に指定された佐渡弥彦米山国定公園、国指定天然記念物及び名勝の佐渡小木海岸など、3億年前から300万年前にわたる貴重な地形・地質遺産としての価値を有している。これらの地域遺産を、地球科学だけでなく、海洋、考古学、

民俗学、歴史学など、様々な分野での研究活動が継続されており、研究者による地域遺産の価値づけがなされている。

[活発な教育普及活動]

- 様々な世代を対象に学校教育・社会教育事業が頻繁に行われ、地域住民や子ども達が、佐渡島の価値を学ぶ機会が定期的に設けられている。有志の住民団体による、市指定天然記念物の沢根貝立層周辺の歩道整備、沢崎集落住民による見学路の階段整備など、地域住民による自主的な地域の遺産の保全と活用を推進する活動が生まれた。協議会事務局員が、佐渡市内の企業団体や各集落役員会への説明を始め、新たに子ども会代表者会議にも出向くなど、積極的な普及活動を行っている点も評価できる。ジオパークを通じた地域研究に興味を持つ中学生が出始めていることから、今後は地元の高등학교との連携を進め、高校生になっても継続してジオパーク活動に参画できるような取り組みの推進を期待したい。

[ジオパークに関する持続可能な活動の拡がり]

- ロゴマークを付したトートバッグやポロシャツ、タオルなど 20 品目に上る多様な啓発グッズが開発されている。中でも、ジオサイト見学時に有用な佐渡ジオパークのロゴマークが入った軍手や絆創膏など、女性目線のアイデアを商品化したオリジナリティ溢れるグッズは、他のジオパークのお手本になりうるものである。
- 宿根木集落内でジオパスタを提供している「茶房やました」や、地元食材と地球活動とのかかわりを紹介したお品書き付きの弁当を開発した「と和とうみ」など、地域食材を活用したジオパークに関連した商品開発を始める事業所が現れ始めた。今後は「ジオパーク協力店制度」等も活用し、地域住民を巻き込んだ活動を幅広く展開してほしい。
- 住民説明会などを契機に、地域住民が地域の貴重な資源を認識し、地域資源を活用したジオツアーの実施や、地域住民を対象としたジオツアーの実施をきっかけに、マリンスポーツ関係者がジオツアーを開始するなどの拡がりが見られる。

[ガイドの自立した活動]

現在の認定ジオガイド 28 名が、独立した組織の下で活動を続けている。月一回の研修会でテーマを決めてワークショップを行うなど、自己研さんにも積極的に取り組んでいる。また、この活動を、専門員を中心とした協議会事務局が全面的に支援している点も評価できる。今後は他のジオパークのジオガイドと交流し、知識とガイド技術にさらに磨きをかけて欲しい。そして、日本列島における佐渡島の成り立ちと、地球がつくった佐渡島の上で作りだされた自然（世界農業遺産）や文化（世界文化遺産）と人のかかわりを、観光客や子ども達を含む地域住民に楽しくわかりやすく伝え続けてほしい。

【今後の課題、改善すべき点】

○緊急に解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. ジオパーク、世界文化遺産、世界農業遺産の類似点と相違点の理解

現在佐渡島が認定されているジオパークと世界農業遺産、そして現在登録を目指している世界文化遺産は、それぞれ目的をもったプログラムである。これら3つのプログラムに関わる関

係者が、各プログラムの類似点と相違点を認識し、そのうえで、それぞれの関わりの明確化に取り組んでほしい。

2. サイトの再設定

237の“ジオポイント”を、ユネスコ世界ジオパークが提唱する地質、自然（もしくは生態）、文化サイトに分類し、佐渡ジオパークとしてのサイトを再設定すること。サイトの再設定は、看板やパンフレット、webサイトなど、あらゆる情報発信媒体に影響を及ぼすため、関係する部会、事務局、専門員などで早急に協議し、決定する必要がある。

3. 「佐渡ジオパーク」という文字の視認性の向上

島内3港のターミナルに設置されている巨大床面地形図は、佐渡島がジオパークに認定されていることの視認性の向上に貢献していることは間違いない。しかしながら、各ターミナル内には「佐渡を世界遺産に」と書かれたのぼりが目立ち、佐渡ジオパークの文字はほとんど見えない。佐渡島への渡航者が一定時間を過ごすことになるフェリーやジェットfoilの中には、佐渡ジオパークのポスター等が掲示されているのみで、佐渡ジオパークに関する系統的な情報が船内で得られる状況にない。ジオパークという文字の視認性の向上は、観光客だけでなく、地域住民に佐渡島がジオパークに認定されていることを認識させる上でも重要である。よって、少なくとも、佐渡汽船内や3つの港等、島内の主なランドマークにおいては、ポスターやのぼり旗の掲示等を通じて、ジオパークという文字の視認性を早急に向上させてほしい。

4. ジオストーリーの再構築に基づく世界文化遺産、世界農業遺産とジオパークとの関わりの明確化

認定時に言及のあった「金山やトキをメインに据えたストーリー作り」は、佐渡ジオパークの基本にかかわる問題である。具体的には、トキについては、トキが棲む自然環境と地球活動とのかかわり（すなわち世界農業遺産とジオパークとのかかわり）を、金銀山については、佐渡島エリアで起きた火成活動と鉱山をもたらした鉱床、およびそれらを活用してきた人々とのかかわり（すなわち世界文化遺産とジオパークとのかかわり）を整理し、佐渡ジオパークとしてのジオストーリーを構築するのが望ましい。これらのジオストーリーは、地域住民や観光関係団体が3つのプログラムの関連性と必然性を知るきっかけになりうる。

5. 化石や鉱物などを含む地層の保護・保全の方針の決定

沢根貝立層では、落ちていた化石を見学者が持ち帰ることを黙認している状況にある。沢根貝立層に限らず、赤玉石など、佐渡島内全ての化石や鉱物などを含む地層をどう保護・保全していくかについて、協議会としての方針を決定し、関係者に通知するなど地域遺産の保護保全の意識を向上させる必要がある。

○今後2年間で解決すべき課題

1. 観光導線の構築

港や佐渡汽船内に設置されている佐渡ジオパークのマップには、モデルコースが明記されていないため、観光客が佐渡ジオパーク内のサイトを周遊する上では不便である。港に降り立っても、佐渡ジオパークの床地図はあるものの、総合案内板もしくはそれに相当する情報発信媒体が分かりやすい場所に設置されていないため、佐渡ジオパークのサイトをどのように周遊すればよいのか、旅行者が判断できない。適切な場所に総合案内看板等の情報発信媒体を設置するとともに、サイトの再設定に合わせて、佐渡ジオパークを効率的に周遊するための導線を整備してほしい。

2. 協議会全体の実質的な活動の活性化

協議会事務局員が地域住民との対話を通じて信頼関係を構築してきた結果、島内のいくつかの地域において、ジオパークに参画する住民が現れ始めている。しかし、佐渡ジオパーク推進協議会の会員および部会を中心とした活動があまり見えない。保全、研究、教育、観光、商工振興等、多岐にわたるジオパーク活動に対し、協議会全体が、それぞれの立場や専門性を存分に生かして、ジオパークを活用した地域活動の活性化に積極的に取り組んでほしい。特に観光関係団体は、既存の観光冊子媒体の中で佐渡島をジオパーク的視点に立って紹介するなど、実質的な貢献を行い、佐渡島のジオツーリズムを発展させる努力と工夫を続けてほしい。

3. 専門的すぎる看板や冊子媒体類の改善

4年前の指摘にもあったが、全般的に看板、パンフレットに代表される冊子媒体の内容が専門的すぎる。地球現象のプロセスやそのダイナミックさ、およびそれらと人々の暮らしとのかわりを、小学生を含む多様な世代にわかりやすく伝えていく工夫が必要である。

4. 佐渡博物館を含む拠点施設の再整備と系統的な情報発信の実施

マリンプラザ小木には、佐渡ジオパークに関するパンフレット等が設置され、一定レベルの情報が入手できる状況にあるが、ジオパークの拠点施設として位置付けられている佐渡博物館には、佐渡島の自然、歴史、文化などに関する展示はあるものの、佐渡ジオパークに関する展示は、館内のごく一部に限られ、十分な情報が入手できる状況にない。現在、予定されている新たなガイダンス施設の建設を機に、佐渡博物館だけでなく、複数の施設を連携させ、観光導線を意識した、系統的かつ効果的な情報発信を行う必要がある。

以上、今回の再審査で指摘された点や現地審査で指摘された問題点を含め、今後どのように改善するか、人や予算等の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、今年度中に日本ジオパーク委員会に報告してください。報告いただいたアクションプランに基づく進捗については、2年後の更新審査時の審査対象となります。

なお、これらの課題解決にあたっては、要望があれば日本ジオパーク委員会としても積極的に支援することを申し添えます。